

令和5年度 長寿の里・南濃 事業報告

【令和5年度重点目標】

- ・ 施設と法人の連携を強化し将来展望を共有しながら、事業運営を安定的に継続させる取り組みを推進する。
- ・ 職員一人一人が専門職として自己研鑽を行い、新たな知識や技術習得を通じた総合的な資質の向上と介護サービス品質の向上に努める。
- ・ 感染症対策の徹底を継続しながら、自然災害等に対する事業継続に必要な準備を積極的に推進する。

【各部門事業実績】

特別養護老人ホーム 令和5年度年間稼働率 95.8%

1. 地域との連携体制強化

- ・ 感染症対策を徹底しながら、地域福祉の担い手として役割を全うすべく、地域の状況を考慮し、緊急性の高い状況に置かれた方々の受入れについて慎重に対応した。コロナ禍にて休止されていた地域の小学校児童との交流を再開した。
- ・ 災害等緊急時については、施設を防災拠点として適切に機能できるよう、地域との関係性をより強固にしつつ、事業継続に向けた準備を行った。

2. ユニットケアの推進

- ・ 職員が自主・柔軟性を持ち他職種が連携し合う事で、限られた資源を有効に活用し、ユニットケアの安全性を重点にケアの維持に努めた。
- ・ 感染対策等で制限がかかる中、ご利用者のニーズを汲み取り、今出来る最大限の対応で日々の幸福感を満たす事ができる取り組みを実施した。
- ・ 皆さんが過ごしやすく、家庭的な雰囲気健康的な生活を継続して頂けるように環境整備を実施した。
- ・ 安心・安全な生活環境で生活頂けるよう、未然の事故防止や事故の再発防止の観点から環境整備を実施した。

3. 専門職等の連携を活かした職場作り

- ・ 専門職としてのスキル向上を目指しオンラインでの研修を中心として、研修への参加を促し、専門知識の習得に努めた。このことにより介護サービスの品質向上において良い効果をもたらした。
- ・ 職員個々のレベルアップの為、介護福祉士資格取得及び実務者研修受講希望者に対してできる限りの環境を提供し、専門的知識や技術の向上を間接的に支援した。

- ・施設での修繕が必要な個所については、優先順位を付け順次対応することで、安全で快適な環境の確保に努めることができた。
- ・嘱託医との連携を緊密に図る事で、医療依存度の高い利用者に対し、看取りを含めニーズを正確に把握し、本人・家族の気持ちに寄り添ったものになるよう努めた。

4. 安定的運営基盤の確保

- ・ショートステイとの連携を図り、稼働率確保と円滑なサービス調整に努めた。
- ・法人他施設との連携を図り、各施設とのすみ分けをしつつ地域特性も考慮し、重度要介護者を積極的に受け入れた。

ショートステイ 令和5年度年間稼働率 93.6%

1. 安心安全なサービスの継続的提供

- ・ご利用者個々の在宅での生活環境を踏まえ、状況に適したケアを提供することで、ADLの維持向上を心掛けたサービスに努めた。また、フロア会議等を活用し多様なニーズに対応できるよう知識習得や情報共有を行った。
- ・感染対策を継続しつつ、外部からの慰問も徐々に開始し、また職員による季節に応じたイベントの提供を行う事で、メリハリのある環境づくりと交流の場を提供できるよう努めた。

2. 家族や事業所との連携強化

- ・変化するご利用者の状態に合わせて、家族やケアマネジャーから情報収集を行い、受け入れ前から利用中に関しての環境を整える事で、未然の事故防止や状態に合わせた生活環境の提供に努めた。また、ご家族やケアマネジャーへの情報提供や共有を行い、信頼関係を強化し質の良いサービスを提供する事ができた。
- ・他職種間との連携を図り、緊急的な利用要望に対しても柔軟かつ円滑に行えた。

3. 安定的運営基礎の確保

- ・他事業所との連携を図り、部屋の状況を考慮し空床の活用と利用者に関する情報を適時・適切に把握することで、サービス利用の調整や入退所の調整を行う事で稼働率確保に努めた。
- ・新規利用者の定期利用や継続利用に繋げた。

デイサービス 令和5年度年間稼働率 64.1%

1. 利用者ニーズへの対応

- ・ ご利用者の状態に応じた機能訓練計画の作成、見直しを行い、適切な訓練の実施を通じて残存機能の維持向上に努めた。
- ・ ご利用者に応じたサービス提供のため、状態を多職種間で正確に共有できるよう話し合いの場を設け目標や訓練内容を検討、家族へも情報発信を速やかに行い、見える化を図った。

2. 魅力ある施設への取り組み

- ・ ご利用者のニーズを把握した上で、ご家族やケアマネジャー、他事業所との関係性を構築し、情報共有し合う事で必要とされているサービスの質を向上させることができた。
- ・ 職員個々のレベルアップのために、内部研修を中心に出来る限りの環境を提供し、知識や技術の向上を間接的に支援した。

3. 安定的運営基盤の確保

- ・ 居宅介護支援事業所に対し、積極的な営業活動や情報提供を行うことにより稼働率の安定的な向上に努めた。
- ・ 職員会議やデイ会議の場を利用し、専門性の高い研修を行う事で、職業意識や基礎的なサービスの品質向上に努めた。

居宅介護支援

1. 外部の研修、地域連絡会への参加、事業所内でのケースカンファレンスを通して、自己点検を行うことが出来た。また、福祉全般の知識、社会資源についても事業所内で情報共有することで知識、資質向上に取り組めた。
2. 関係機関との連携を行い、協働してご利用者の支援を行うことで支援の幅を広げることができた。

訪問介護

1. 個々のご利用者の状況を考慮し、信頼関係を築き適切なサービス提供をすることが出来た。
2. 職員同士で情報を共有し、仲間として助け合える環境を整えることが出来た。
3. 他事業所と連絡を適切に取り合うことが出来、利用者の状態変化に対応したサービス変更をして、在宅生活の継続を支えることが出来た。